

[成果情報名] イチゴ「ゆめのか」における年内葉面積と収量

[要約] イチゴ「ゆめのか」の長崎県型高設栽培において、12月末に1株当たり葉面積を1100cm²以上確保すると、2月までの早期収量は枯葉のみ摘葉を行う場合と同等の収量が確保できる。

[キーワード] イチゴ、ゆめのか、葉面積、摘葉

[担当] 長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・野菜研究室

[連絡先] (代表) 0957-26-3330

[区分] 野菜

[分類] 指導

[作成年度] 2020年度

[背景・ねらい]

イチゴ「ゆめのか」における葉位別光合成速度は、第3葉および第5葉で高くなり、葉位別寄与率は第8葉～第10葉で15%という報告がある（成果情報2015）。

一方で、「ゆめのか」ではハダニ類が発生しやすく、防除効果を高めるため摘葉を行うが、葉数が収量におよぼす影響は明らかにされていない。

そこで、年内に摘葉を行った際における葉数の差が収量におよぼす影響を確認する。

[成果の内容・特徴]

1. イチゴ「ゆめのか」で年内を7枚/株に摘葉すると、12月末で葉面積を約1100cm²/株が確保できる（表1）。
2. 年内を7枚/株に摘葉すると、2月以降の総葉数は枯葉のみ摘葉したときと同等となる（表2）。
3. 年内を7枚/株に摘葉すると、2月までの総収量は、枯葉のみ摘葉したときと同等となる（表3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果は長崎県型高設栽培、株間25cm、2条千鳥植え（560株/a）で有効である。
2. 最終摘葉時における無処理の総葉数は、2018年は11.9枚、2019年は13.1枚である。
3. 各処理における平均商品果1果重に有意な差は認められなかった（データ略）。
4. ハダニ被害時の薬剤散布前の摘葉に活用できる。
5. イチゴ「ゆめのか」の摘葉処理に活用できる。
6. 年内の芽数は1芽管理とする。

表 試験区の構成

摘葉処理 ²	
強摘葉	4枚に摘葉
中摘葉	7枚に摘葉
無処理	枯葉のみ摘葉

²10月から12月まで各月末に摘葉し芽数は1芽管理
1月から枯葉のみ摘葉し芽数は放任管理。

耕種概要

1. 栽培方式：長崎県型高設栽培
2. 品 種：ゆめのか
3. 定 植 日：2018年9月10日（暗黒低温処理 2018年8月24日～9月9日）、
2019年9月10日（暗黒低温処理 2019年8月26日～9月9日）
4. 栽植株数：株間25cm、条間20cm、二条千鳥植え、560株/a
5. 区 制：2018年1区10株2反復、2019年1区5株4反復

[具体的データ]

表1 摘葉処理による1株当たり葉面積^z (cm²) の推移

年次	処理	11月	12月	1月	2月	3月
2018	強摘葉	865 c ^y	548 c	872 c	1430 b	2077 a
	中摘葉	1300 b	1130 b	1433 b	2175 a	2645 a
	無処理	1728 a	1993 a	2284 a	2696 a	2875 a
2019	強摘葉	693 c	585 c	807 c	1058 b	1481 b
	中摘葉	1210 b	1159 b	1383 b	1513 ab	2130 a
	無処理	1990 a	2190 a	2125 a	1807 a	2411 a
2か年平均	強摘葉	789 ±66 ^x	566 ±38	840 ±72	1244 ±147	1779 ±210
	中摘葉	1257 ±85	1144 ±91	1408 ±127	1844 ±269	2388 ±304
	無処理	1859 ±160	2092 ±159	2204 ±155	2251 ±337	2643 ±281

^z 葉面積 = Σ (中央葉の葉身長 × 葉幅 × 2)

^y 縦の異なる文字間にはTukeyの多重検定により5%レベルで有意差あり

^x 95%信頼区間の幅

表2 摘葉処理後における総葉数

処理	総葉数		
	1月 (枚)	2月 (枚)	3月 (枚)
強摘葉	7.0 c ^z	9.7 b	13.3 b
中摘葉	9.6 b	13.4 a	16.5 ab
無処理	13.8 a	15.8 a	17.2 a
強摘葉	6.8 c	9.8 b	12.1 b
中摘葉	9.8 b	12.2 a	15.2 a
無処理	13.0 a	13.0 a	16.5 a

^z 同月における異符号間にTukeyの多重検定により5%レベルで有意差あり

表3 摘葉処理における総収量および商品果収量

年次	処理	総収量			商品果収量		
		年内 (kg/a)	2月まで (kg/a)	5月まで (kg/a)	年内 (kg/a)	2月まで (kg/a)	5月まで (kg/a)
2018	強摘葉	135 (88) ^z	289 (94)	510 (94)	133 (88)	287 (97)	505 (96)
	中摘葉	137 (90)	309 (100)	521 (96)	137 (90)	307 (103)	512 (97)
	無処理	153 (100)	309 (100)	541 (100)	152 (100)	297 (100)	526 (100)
2019	強摘葉	151 (95)	250 (91)	483 (100)	149 (96)	246 (92)	472 (101)
	中摘葉	159 (100)	276 (100)	497 (103)	156 (101)	270 (100)	487 (104)
	無処理	159 (100)	276 (100)	483 (100)	155 (100)	268 (100)	468 (100)

^z カッコ内の数字は各株間の無処理を100としたときの割合

[その他]

研究課題名：単収日本一を目指したイチゴ「ゆめのか」の増収技術開発、イチゴ「ゆめのか」の高単価果実生産技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2016～2018年度、2019～2021年度

研究担当者：芋川あゆみ、松本尚之